

(4) アユ (サケ目アユ科)

① 分布

最上流域の一部と小支流の上中流域を除く
集落

② 主に見られた場所

川, 水路など

③ 採録した呼び名

- ・ 共通 アイ, アユ (全集落)
- ・ 稚魚・小型魚 アイゴ, ジアイ
- ・ 大型魚 ナタアユ
- ・ 秋に川を流下 オチアイ, オチアユ



(水野知巳・聡子氏撮影)

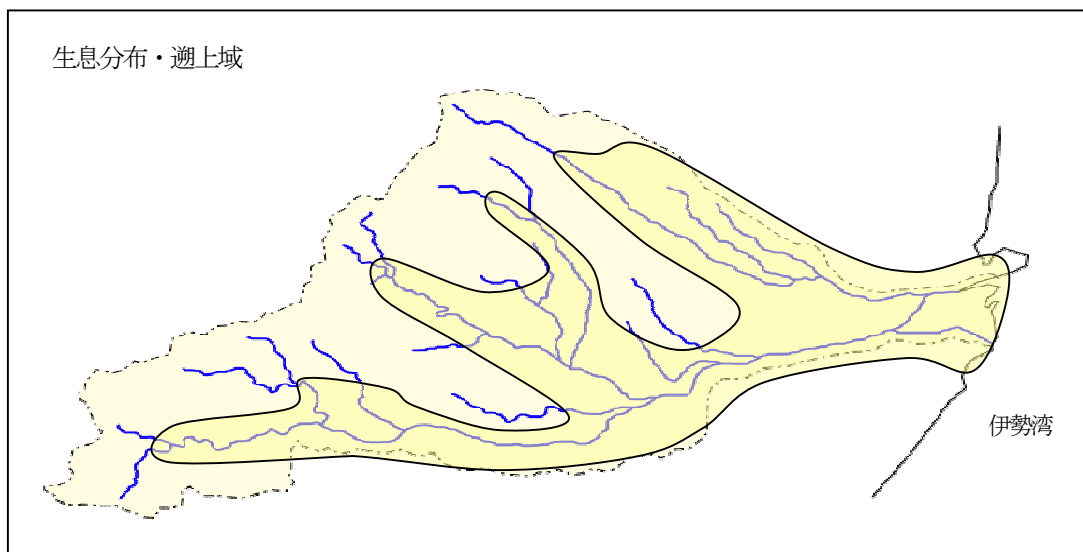
④ 分布と呼び名について

当時の本種の遡上域としては、鈴鹿川本流では関町筆捨、加太川では関町北加太、御幣川では小岐須の「鮎止めの滝」、内部川では水沢までであり、主要本支流沿いではかつて、ほとんどの地域でアユが見られたという。

呼び名としては、標準和名である「アユ」をはじめ、稚魚・小型魚、秋に成魚となり川を下るものや大型魚などを含め計7種採録した。

アユの生息の有無にかかわらず流域の全集落から「アユ」及び「アイ」を採録したが、当時においては「アイ」が呼ぶのが一般的であったようである。

また、多く見られた小型魚は「ジアイ」、「アイゴ」、秋に川を下るものは「オチアイ」、「オチアユ」と呼ばれ、流域で一般的な呼び名であったとともに、特に30cm近くになる大型魚を「ナタアユ」と呼んだ地区(亀山市太森町)が見られた。



⑤ その他

かつては、鈴鹿川流域でも数多くのアユが見られたようであるが、安楽川や御幣川などの上流域では特に大型個体が見られたという。

とりわけ、御幣川は昔から大型のアユを産することとして知られ、流域の集落は「御贄郷」と呼ばれ、昭和時代の始め頃まで、川でアユを取り伊勢神宮に奉献する「御贄神事」が断続的に行われていたという。

一方、小支流上中流域では川幅が狭く「ゆせぎ」などと呼ばれた灌漑用の堰堤が数多く造られたためにその遡上が阻まれたものと見られる。

(4) -2 アマゴ類 (サケ目サケ科)

① 分布

最上流域の集落

② 主に見られた場所

川

③ 採録した呼び名

- ・ 標準和名 アマゴ
- ・ その他 アメゴ

④ 分布と呼び名について

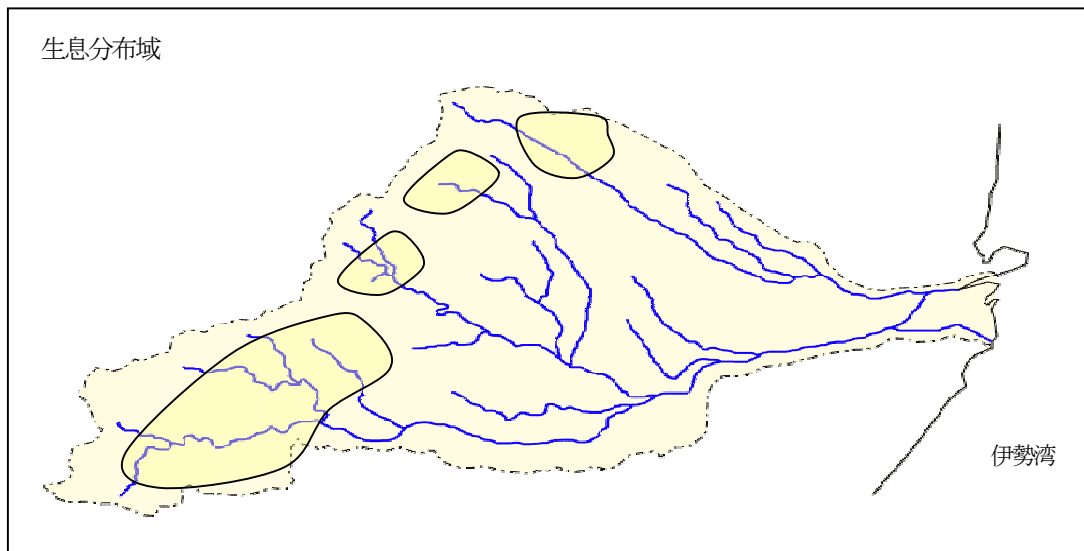
最上流域である関町坂下・市ノ瀬地区 (鈴鹿川, 中津川), 関町加太地区 (加太川), 関町鷲山 (小野川), 亀山市安坂山地区 (安楽川), 鈴鹿市小岐須町 (御幣川), 四日市市水沢宮妻町 (内部川) の集落において, 山奥の谷川を中心に, 時折集落でも見られたという。

呼び名としては, 「アメゴ」と「アマゴ」の計2種を採録した。

もともと上流域において生息していたものなのか, 人為的な放流によるものかははっきりしないが, 当時から見られたという。



(水野知巳・聡子氏撮影)



⑤ その他

現在は, 放流によるものと見られるイワナとともに無紋イワナ, イワメの生息についての話も聞かれた。

(5) トゲウオ科の魚（トゲウオ目トゲウオ科）

① 分布

不明

② 主に見られた場所

湧水の水路など

③ 採録した呼び名

— （「巣を作る魚」，「巣のような所に入りする魚」）



<写真：ハリヨ、水野知巳・聡子氏撮影>

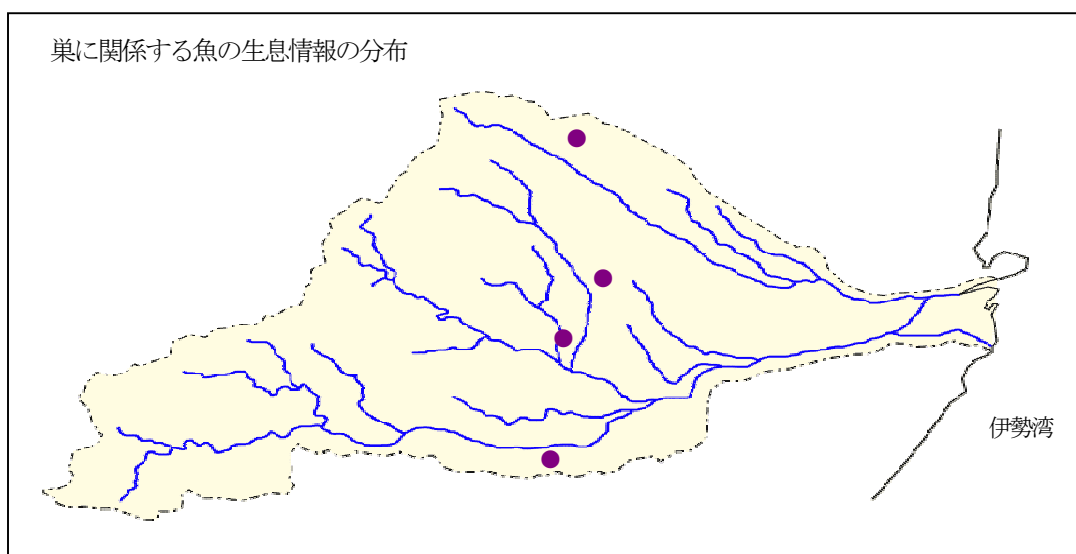
④ 分布と呼び名について

中上流域の次の4箇所において、計5名の高齢者から巣に関する小魚の話の採録し、いずれも湧水やマンボからの水路等といった一年を通して冷水が流れる場所であった。

- ・ 亀山市和賀町，川崎町
- ・ 鈴鹿市伊船町
- ・ 四日市市水沢宮妻町

こうした話のあった具体的な場所は、これまでの河川改修や農地整備により、現在では当時と全く異なる状況にあり、採録した魚種は見られず、それらがトゲウオ科の魚（ハリヨ，トミヨ類）であったかどうかの確認はできない。しかし、「巣を作る魚」又は「巣のような所に入りする魚」はトゲウオ科の魚そのものであり、かつて鈴鹿川流域に本種が生息していた可能性があることが示唆される。

なお、呼び名は特に採録しなかった。



⑤ 本種と聞き取り調査について

記録として残る冷水系の魚であるトゲウオの分布上の南限は、三重県桑名市多度町とされており、鈴鹿川水系では生息していない魚種とされている。

もとより本調査の対象としていなかったが、聞き取りを進めていく中で、「巣を作る魚がいた」、「巣のような所に入りする魚がいた」といった話が高齢者から聞かれたため、途中から調査対象に含め、聞き取りを行った。

調査方法としては「巣を作る魚」，「巣に入りする魚」の有無について口頭で聞き取りを行うとともに、補足的にハリヨの写真の提示を行い、その結果を別途「トゲウオ調査票」としてまとめた（→ 6(2) トゲウオ調査票）。

これら以外にも中下流域の湧水地等において、「他にはいない奇妙な小魚」と言った話や、ハリヨの写真を見て、「それがいた」という話が聞かれた（川崎，塩浜等）が、トゲウオ科の魚の特徴である「巣」に関係した内容は聞き取れなかったため、ここには含めていない。